

有機圃場田植え終了!

# 生産者通信

NPO法人  
米ニケーションセンター  
定価 100円(送料込)

## 雑草との戦い

## 無くすことよりも 「共生」の道を探ろう

平野部では田植え後の苗が勢い良く分げつをはじめていきます。植え付け本数の多かった水田ではすでに20本を超えています。分げつの勢いは人間の都合に合わせて中々止まってくれません。JA等は盛んに「茎数調節のための中干し」を指導していますが、茎数が多くなりすぎることを前提にして、人為的に分げつを抑え込むための技術を組み立てるのは少しおかしいと思ってしまうかもしれません。発生した茎の全部に穂を付けてくれるのが理想ですが、実際にはそうはなりません。

しかし、出来るだけ有効茎歩合を上げることは茎の質を良くし、その後の籾の着粒数と登熟歩合を上げること



5/12 ハウス内100g播き  
無加温プール育苗  
植付適期の苗 (播種後23日)

につながりません。無理な茎数調節をしなくても良いように株当たり植え付け本数を少なくし、初期に効く肥料を少なくして過剰な分げつを抑える技術への転換の必要性を以前から感じていました。

むしろ中干しは「田のワキ防止」のための技術として、もっと活用されるべきでしょう。ワキによる稲の根への障害は、稲の下葉が黄化しはじめることで確認することができません。多少でもその兆しが見えたら排水口を開き、暗渠も抜いて田を乾かして稲の根に酸素を供給することで簡単に解決できます。特に水の縦浸透が少ない田では



5/17 50g播き  
屋外無加温プール育苗  
(播種後28日)

ワキの被害が毎年相当見受けられます。

さて、我が家の有機の田植えは6月3日と予定より遅れてしまいました。播種が4月19日でしたから、丁度45日目になります。25日目と35日目にNで箱あたり1gの追肥をおこないました。1回目の追肥ではほとんど肥効が現れず、20日位で肥料切れをおこしていたようです。今年は長岡の農総研でも全く同様の現象が起きていたそうです。床土の肥料配合は例年通りだったと思われ、すので、今年の気象条件などで肥効に変動があったのでしょうか。そんなことも自然相手の



5/29  
仕上げ代時のコナギの発生状態

農業の面白さなので、農業者の面がたつたためもあるのでしょうか、2回目の追肥で一気には葉色も上がって、田植え時には4〜4.5葉、14〜15日に成長しました。播種後、屋外の無加温の育苗でも日数さえ確保すれば、十分できますが、育苗期間を短縮したり発芽率をより高めるには、発芽機を使ったりハウス内で積み重ね発芽をおこなえば、作業計画に狂いが少なく、手間ひまをかけるだけの効果はあると思われ、一方で、5月2日に荒代をおこない浅水を保った水田は、すでに5〜6葉に成長した立派な「コナギ」で覆われる状態でした。「ヒエ」は一部の場合に限定的にしか生えていませんでした。田植え5日前に(予定では3日前の予定が、都合で田植えが遅れてしまった)少していけない仕上げ代をおこなってコナギを土中に練り込みましたが完璧にはいかず、わずかなものは着床して田植え時には元気を取り戻してしまっていました。



5/29  
コナギの根 長く伸びている

田植え後5〜6日(代播き後10日余り)で、コナギが一斉に発芽し、1〜2葉(3〜5mm)になっていました。早速チエーンを引きましたので、コナギの密度は減りましたが、完全に無くすことは当然できません。

《裏面に続く》